

2021年8月31日

報道機関 各位

東北大学大学院医学系研究科
東北大学病院

誤嚥性肺炎は80歳代に最も多い 宮城県内8つの病院における多施設大規模調査

【研究のポイント】

- 入院患者における誤嚥性肺炎^{注1}の特徴、および、検査と治療の現状を把握するために、2019年に宮城県内の8つの病院で調査を行った。
- 嚥下性肺炎は80歳代が最も多くなることが明らかになった。
- また、肥満度の指標であるBMI値が低い入院時において炎症の指標となる値(CRP値)が低い、脳血管障害、認知症、神経疾患の併存が多い、病院・介護施設に入院・入所している症例が多いといった特徴も判明した。

【研究概要】

肺炎は日本人の主要な死亡原因の第3位を占めています。肺炎によって死亡する患者の9割以上は高齢者で、高齢者の肺炎の約8割は誤嚥性肺炎とされています。

東北大学大学院医学系研究科の耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野、香取幸夫教授、鈴木淳講師、池田怜吉講師のグループは、本邦における嚥下性肺炎の現状を把握するために、宮城県の8つの基幹病院において肺炎患者の大規模調査を行いました。

本研究は、最近の誤嚥性肺炎の概要を明らかにした重要な報告です。誤嚥性肺炎に対する嚥下介入並びに嚥下機能評価はいまだ十分に行われていないことが明らかとなり、今後の指針を決定する上で必要な知見が得られると期待されます。

本研究成果は、2021年7月30日 Plos One 誌(電子版)に掲載されました。

【研究内容】

肺炎は2011年以降日本の主要な死亡原因の第3位を占めています(2019年厚生労働省調べ)。肺炎によって死亡する患者の9割以上は高齢者で、高齢者の肺炎の約8割は誤嚥性肺炎とされています。そのため、日本社会の高齢化と共に高齢者の誤嚥性肺炎は今後も増加が予想され、その実態の把握と対処が課題となっています。

今回、東北大学大学院医学系研究科の耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野、香取幸夫(かとり ゆきお)教授、鈴木淳(すずき じゅん)講師、池田怜吉(いけだ りょうきち)講師の研究グループは、本邦における誤嚥性肺炎の特徴、および、検査と治療の現状を把握するために、宮城県の基幹病院における肺炎患者の大規模多施設調査を行いました。2019年に宮城県内の8つの病院(図1)で入院治療を受けた肺炎患者1800名を調査した結果、誤嚥性肺炎の割合は38.4%であり、高齢者、特に80歳以上で高い割合を示していました。患者数は80歳代が最も多く、2008年の報告における70歳から高くなっていました。高齢化に伴い、この10年で年齢のピークがずれたものと考えられました。

また、誤嚥性肺炎の症例の特徴として、肥満度の指標となるBMI値が低い入院時では、細菌などの感染による炎症の指標となるCRP(C反応性タンパク質)値が低い、脳血管障害、認知症、神経疾患の併存が多い、病院・介護施設に入院・入所している症例が多いといった項目が挙げられました。2週間以上入院した誤嚥性肺炎患者に対する嚥下機能を改善する治療(嚥下介入)は51%施行されており、嚥下内視鏡検査は嚥下介入患者の20%に、嚥下透視検査は5%に施行されていました。

結論:本研究によって誤嚥性肺炎の現状が明らかとなりました。誤嚥性肺炎に対する嚥下介入並びに嚥下機能評価はいまだ十分に行われていないことが明らかとなり、今後さらに高齢化が進むと考えられる我が国において、嚥下介入・評価のより一層の充実が求められます。

支援:本研究は、日本医療研究開発機構(障害者対策総合研究開発事業)の支援により実施しました。

【用語説明】

注1. 誤嚥性肺炎:食べ物や飲み物が誤って気管に入ってしまう、同時に持ち込まれた細菌が肺で増殖して引き起こされる肺炎。高齢者や寝たきり患者などで、物を飲み込む働きが弱くなると発症するが多い。



図 1. 調査対象病院
宮城県全域の 8 つの基幹病院を対象とした。

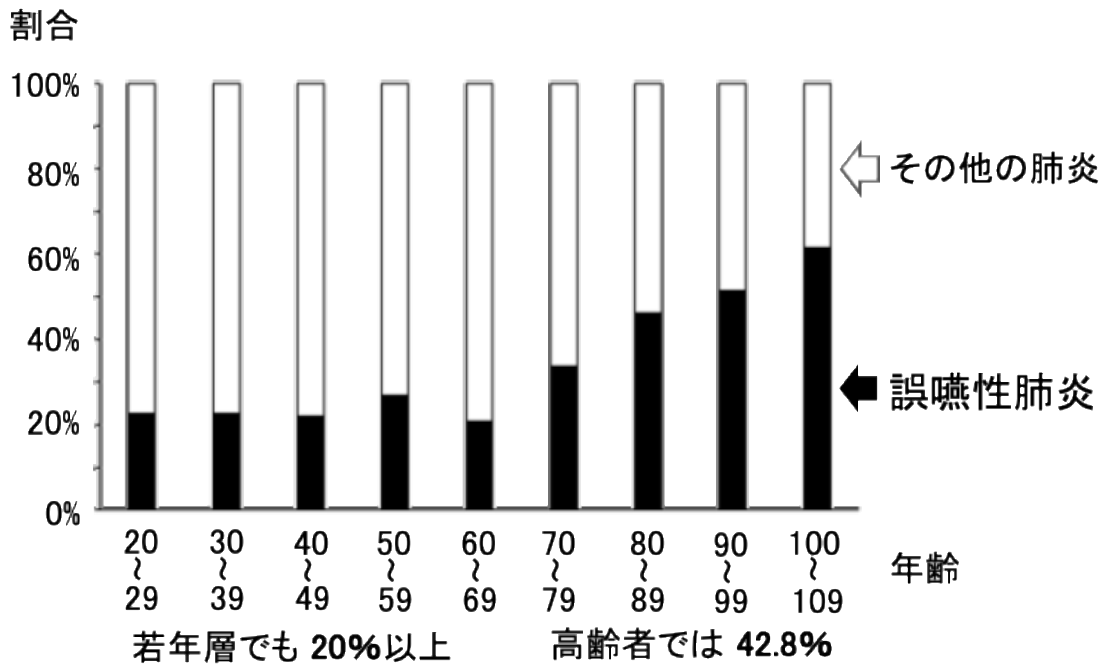


図 2. 誤嚥性肺炎(誤嚥性肺炎)の割合

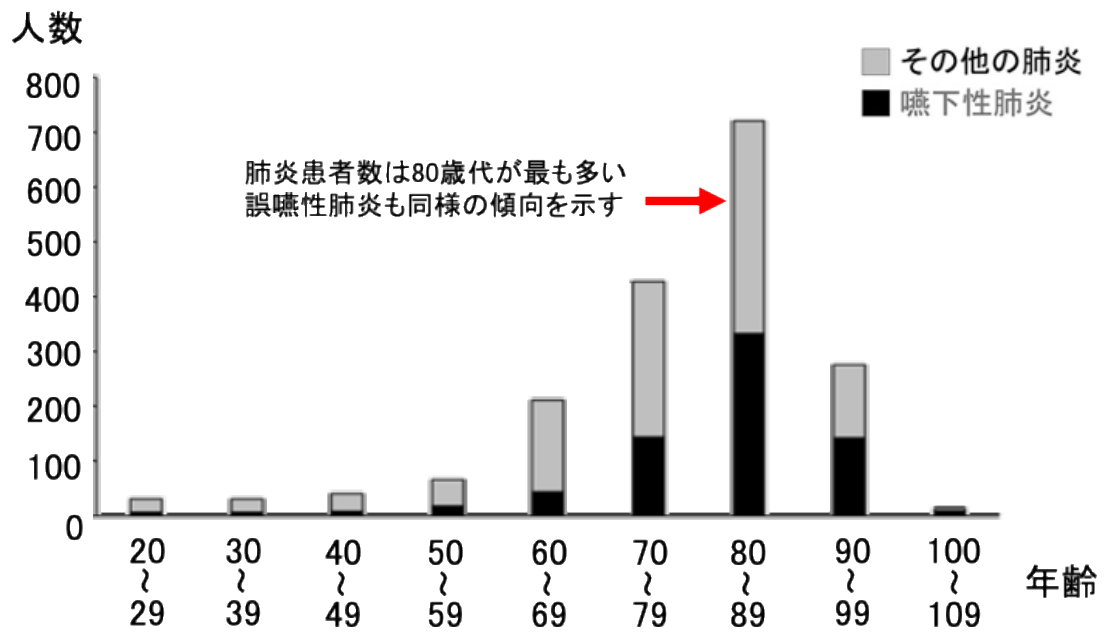


図 3. 誤嚥性肺炎の年齢分布
肺炎全体、嚥下性肺炎ともに 80 歳代が最も多い。

【論文題目】

Title: Characteristics of aspiration pneumonia patients in acute care hospitals: A multicenter, retrospective survey in Northern Japan

Authors: Jun Suzuki, Ryoukichi Ikeda, Kengo Kato, Risako Kakuta, Yuta Kobayashi, Akira Ohkoshi, Ryo Ishii, Ai Hirano-Kawamoto, Jun Ohta, Rei Kawata, Tomonori Kanbayashi, Masaki Hatano, Tadahisa Shishido, Yuya Miyakura, Kento Ishigaki, Yasunari Yamauchi, Miho Nakazumi, Takuya Endo, Hiroki Tozuka, Shiori Kitaya, Yuki Numano, Shotaro Koizumi, Yutaro Saito, Mutsuki Unuma, Ken Hashimoto, Eiichi Ishida, Toshiaki Kikuchi, Takayuki Kudo, Kenichi Watanabe, Masaki Ogura, Masaru Tateda, Takatsuna Sasaki, Nobuo Ohta, Tatzuma Okazaki, Yukio Katori

タイトル: 急性期病院に置ける嚥下性肺炎の検討

著者: 鈴木淳、池田怜吉、加藤健吾、角田梨紗子、小林祐太、大越明、石井亮、平野愛、太田淳、河田怜、神林友紀、波多野雅輝、宍戸雅悠、宮倉裕也、石垣賢人、山内康成、中角美穂、遠藤拓弥、戸塚大幾、北谷栞、沼野佑樹、小泉祥太郎、斎藤雄太郎、鶴沼むつ貴、橋本研、石田英一、菊地俊晶、工藤貴之、渡邊健一、小倉正樹、舘田勝、佐々木高綱、太田伸男、岡崎達馬、香取幸夫

掲載誌名: PLoS One. 2021 Jul 30;16(7):e0254261.

DOI: 10.1371/journal.pone.0254261. eCollection 2021.

【お問い合わせ先】

(研究に関すること)

東北大学大学院医学系研究科

耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野

教授 香取 幸夫 (かとり ゆきお)

電話番号: 022-717-7304

Eメール: yukio.katori.d1@tohoku.ac.jp

(取材に関すること)

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室

東北大学病院広報室

電話番号: 022-717-8032

FAX 番号: 022-717-8931

Eメール: press@med.tohoku.ac.jp